

三笠宮家ゆかりの染織美

— 貞明皇后、いつくしみの御心 みこころ





三笠宮家ゆかりの染織美

—— 貞明皇后、いつくしみの御心 みこころ

平成二十五年七月二十七日(土)～九月二十九日(日)

前期…七月二十七日(土)～八月二十五日(日)

後期…八月三十一日(土)～九月二十九日(日)

宮内庁三の丸尚蔵館

目次

3	— ごあいさつ
6	— 崇仁親王殿下、ご幼少時のお召し物——大正の思い出
11	— 図版・解説
34	— (コラム) 伝統をつなぐ品々
57	— 三笠宮家系図
58	— 出品目録
III	— List of Exhibits
II	— Foreword

凡例

- 一、本図録は、平成二十五年七月二十七日(土)～九月二十九日(日)までを会期とする展覧会「三笠宮家ゆかりの染織美—貞明皇后、いつくしみの御心」の解説図録である。
- 一、本展覧会で展示する作品は、すべて三笠宮家のご所藏品である。
- 一、本図録に掲載する図版の作品番号は、展示番号と一致する。
- 一、会期中に展示替を行う。
- 一、本図録に掲載した作品寸法の単位はcmである。特に記載のない限りは総丈×総幅で示している。
- 一、本展覧会は当館学芸室主任研究官・五味聖が担当し、同主任研究官・太田彩と共に企画した。本図録の解説は、6～10頁の概説を五味が、34～35頁の解説を太田が担当した。各作品の解説は共同執筆による。
- 一、本図録掲載のご肖像のお写真は、4頁は当庁総務課より、また5頁および32頁については三笠宮家より提供を受けた。他はすべて当館所蔵である。作品写真については、福島省、綿引雅俊(以上、株式会社インフォマーヂュ)が撮影した当館所蔵のデジタル画像を使用した。

づあいさつ

三笠宮崇仁親王殿下は、大正四年十二月二日に大正天皇と貞明皇后の第四皇男子としてご誕生になり、澄宮すみのみやという称号を賜りました。そしてご成年式に際し、三笠宮家を創立されました。

その三笠宮家には、殿下がご幼少時にお召しになった御服類の数々が、戦火をくぐり抜けて、大切に保管されてきました。これらは、宮中三殿に初めて拝礼された折の御服、お誕生日などにお召しになった晴れ着のほか、大正十一年に学習院初等科へ入学されてからの制服、野球のユニホーム「AS」(青山澄宮チーム)等も加わり、殿下の活発なご成長の様子を伝えています。

このうち、晴れ着の数々は、いずれも振袖に仕立てられ、紅や桃色、萌黄もへいや浅葱色あさぎなどの鮮やかな色調に染め上げられた綾地や縮緬地等に、吉祥や花枝の模様が美しく刺繍されています。江戸時代以来の伝統的な意匠、技術を残しながらも、大正期ならではのモダンさもうかがえ、その装飾技術に工夫が示されています。また、大正八年のお誕生日に初めて袴を着けられて後、時に応じてお召しになった黒羽織や袴等にも洗練された瀟洒しょうしやな意匠がうかがえます。このほかに、着物の上にお召しになった艶つややかなビロード地に裾模様が刺繍されたマント等も伝えられています。

今回、ご紹介する機会を得たこれら三笠宮崇仁親王殿下ゆかりの愛らしく美しい御服の数々には、貞明皇后の母としての御心みこころが重ねられ、愛情を注がれた様子を感じることができます。貞明皇后の想いが込められ、殿下が大切にされてきた品々を通して、大正期の優れた染織技術の粋とその意匠美にも触れていただければ幸いです。

平成二十五年七月

宮内庁三の丸尚蔵館

宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 出品作品一覧 (第63回 三笠宮家ゆかりの染織美－貞明皇后, いつくしみの御心)

作品番号	作品名	作者名	員数	時代	ページ
1	産着 白平絹地蓬萊紋付		二組		p. 12
2	振袖・袖無し羽織 白紋縮緬地		一組		p. 13
3	振袖・袖無し羽織 白紋縮緬地		一組		p. 13
4	振袖 桃色紋縮緬地 菊桜折枝雲立涌鳥丸模様		一組		p. 14
5	振袖 白茶紋紗縮緬地 松撫子鷺模様		一組		p. 15
6	振袖 染分紋縮緬地 四君子伊達紋付		一組		p. 16
7	振袖 紫紋縮緬地 竹梅水仙雪花模様		一組		p. 17
8	振袖 浅葱絹地 秋草浮線綾模様		一組		p. 18
9	振袖 薄萌黄綾地 鶴破れ花菱亀甲に 紅葉藤菊折枝模様		一組		p. 19
10	和服洋のマント・帽子 クリーム色		一組		p. 20
11	和服洋のマント・帽子 鼠色		一組		p. 21
12	振袖・袖無し羽織 萌黄紋縮緬地 雲松紅葉模様		一枚		p. 22
13	振袖・袖無し羽織 紫絞染紋縮緬地 糸菊伊達紋付		一組		p. 22
14	振袖・袖無し羽織 紫斑染縮緬地		一組		p. 23
15	振袖・袖無し羽織 鶺鴒色紋縮緬地 若松鶴模様		一組		p. 23
16	振袖・被布 紫変わり紋縮緬地 若松鶴伊達紋付		二枚		p. 24
17	振袖 白紋縮緬地 燕模様		一組		p. 25
18	振袖 紫菊海松立涌紋縮緬地		一枚		p. 25
19	振袖 紫斑染縮緬地		一枚		p. 26
20	振袖 薄黄縮地 朽木菖蒲楓芍薬丸模様		一組		p. 26
21	振袖・袖無し羽織 紫変わり紋縮緬地・ 山吹茶色斑染紋縮緬地 桜模様		一枚		p. 27
22	振袖 紫紋縮緬地 槍梅模様		一枚		p. 27
23	振袖 紫白染分縮緬地 花扇蝶鳥模様		一組		p. 28-29
24	振袖 黒紅綸子地 落瀧津模様、 白長袴・白袴 生絹地		一組		p. 30-31
25	振袖 濃縹絹縮緬地 紅葉秋草鶺鴒模様		一組		p. 32
26	振袖 浅葱縦絹地 雲鶴模様		一枚		p. 33
27	振袖 浅葱縮地 柳桔梗朝顔花菱模様		一組		p. 33
28	茶ビロード地洋服・帽子、白ブラウス		一組		p. 36
29	紺セーラー服・帽子		一組		p. 36
30	白セーラー服		一組		p. 37

31	振袖 紫平絹地 雲立涌尾長鳥花折枝模様		一枚		p. 38
32	白袴 生絹地		一枚		p. 38
33	振袖 黒縮緬地 梅枝小葵模様		一組		p. 39
34	振袖 紺紋縮緬地		一枚		p. 40
35	振袖 縹変わり紋縮緬地		一組		p. 40
36	振袖 白地錨に波模様		一枚		p. 41
37	振袖 浅葱紵地		一枚		p. 41
38	黒リボン付き紺セーラー服		一組		p. 42
39	紫リボン付き紺セーラー服		一組		p. 42
40	白コート・帽子		一組		p. 43
41	振袖 黒羽織・袴		一組		p. 44-45
42	振袖 鶺鴒色紋紵地		一枚		p. 46
43	筒袖 薄浅葱紋縮緬地		一枚		p. 46
44	振袖 臘脂縮緬地 四季草木器物鶴模様		一組		p. 47-48
45	振袖 海松色縮緬地 流水鯉芦鷺撫子模様		一組		p. 49
46	振袖 薄海松色綾地		一枚		p. 49
47	御拝服		一式		p. 50-51
48	学習院初等科制服風の御服		一点		p. 52
49	学習院初等科制服風の御服・帽子		一組		p. 52
50	学習院初等科制服（正服）		一組		p. 53
51	学習院初等科一年の運動服・地下足袋		一組		p. 53
52	学習院初等科制服（略服）		一組		p. 54
53	学習院初等科のコート		一点		p. 54
54	野球チーム「青山澄宮」のユニホーム		一組		p. 55
55	野球チーム「青山澄宮」のユニホーム		一組		p. 55
56	水泳帽		五点		p. 55
57	ポシエット		一点		p. 56
58	乗馬用キュロット		一点		p. 56



ご結婚70年を迎えられた、三笠宮崇仁親王殿下・百合子妃殿下(平成23年10月)



中近東文化センターにて
(平成19年10月)

フランス国「碑文・文芸アカデ
ミー」外国人会員への任命式
において(平成3年11月)

崇仁親王殿下、ご幼少時のお召し物——大正の思い出



三笠宮家は、大正天皇と貞明皇后の第四皇男子としてご誕生になった崇仁親王殿下が、ご成年を迎えられた昭和十年（一九三五）に創立された宮家である。当館では、三笠宮家が所蔵される御服類をお預かりすることとなり、この度の展覧会で、崇仁親王殿下がご幼少時にお召しになったお和服、お洋服をご紹介する機会を得た。これらの品々は、殿下の御母、貞明皇后の思召しによって誂えられたものである。なかでも、振袖に仕立てられた美しい晴れ着の数々は、皇室や公家の服飾の伝統を色濃く伝えながらも、大正期の染織技術の粋を示しており、この時期ならではの、明るく軽やかな色彩に満ちている。また、親王のご幼少時のお召し物が、これほどにまとまって伝えられていることも珍しく、大変に貴重である。三笠宮家は、昭和二十年五月二十五日の空襲で被災され、宮邸が全焼している。この時、宮家の土蔵にも焼夷弾が落ちて被害を受けたが、幸いにも御服類が納められていた棚は焼失を免れ、今日まで大切に保管されて伝えられてきた。

ここでは、本展開催を快くご了解くださった三笠宮崇仁親王殿下ならびに百合子妃殿下の御事績とともに、崇仁親王殿下のご成長の折々に、貞明皇后が注がれていった御心のご様子を、愛らしい品々を通してご紹介する。

崇仁親王殿下は、大正四年（一九一五）、京都で大正天皇の即位の礼が行われた翌月、十二月二日に赤坂御用地内の青山御所でご誕生になった。ご誕生時の体重は九百三十匁（およそ三五〇グラム）、と当時の新聞は伝えている。七日目の十二月八日に行われた命名の儀において、御名を「崇仁」、ご称号を「澄宮」と定められた。お印は「若杉」である。三人のお兄様方である裕仁親王（皇太子、後の昭和天皇）、雍仁親王（秩父宮、宣仁親王（高松宮）が、明治天皇の皇孫としてお生まれになったのに対し、崇仁親王殿下は、天皇の皇子としてお生まれになったことは、お兄様方とは生まれながらにお立場が違った、ということでもあった。貞明皇后は崇仁親王殿下を御年満三十一歳で出産されたが、上の三人の親王の御養育に当たられた時は、まだ年もお若く、皇太子妃というお立場もあり、周囲へのご遠慮もあったが、崇仁親王殿下の御養育は、その思召し通りにされ

たという。貞明皇后が選ばれた美しい晴れ着、それをお召しになった殿下のお写真の数々からも、高松宮から十一歳近く年が離れて誕生された一番末の崇仁親王殿下をことのほか可愛がられた様子が窺える。崇仁親王殿下は、週に数回、宮城に参内してご両親にご挨拶される、というご日常のなか、青山御所において多くの職員に囲まれて健やかに成長された。満五歳の頃には、すでに歌をお詠みになり、殿下の詞に、「七つの子」などで知られる作曲家、本居長世が曲を付けられたことは、殿下の童謡として当時、新聞などで広く紹介された。純真なお言葉による歌には次のようなものがある。

月と雁

つきよのそらを さんとびて みやくんごてんで それみてる

（筆者註）「みやくん」とは殿下ご自身のこと

夾竹桃

きょうちくとうに はなさけば てうやとんぼが とんでくる

砂糖

さとうはあまくおいしくて ぎゆうにうなんか いれてのむ

田母沢河

たまぎはがはは みづきよし なんでもながせ ながせ

これらが紹介された翌年の大正十一年四月、殿下には学習院初等科に入学された。初等科時代には、野球を覚えられて、宮家職員とともに野球チーム「青山澄宮」を結成するほどまでに、熱心に取り組まれた。また、初等科四年からは、沼津御用邸近くにある学習院遊泳場での遊泳演習に参加され、小堀流の古式泳法を学ばれるなど、その活発なご様子が窺える。初等科五年、満十一歳を迎えられて間もなく大正天皇が崩御され、御兄の昭和天皇が即位されて、昭和の御世を迎える。昭和三年三月には初等科をご卒業、翌月には中等科へお進みになった。本展でご紹介しているお召し物は、この初等科時代までのものである。昭和七年三月に学習院中等科四年をご修了、陸軍士官学校予科に入学された。当時は、明治四十三年に公布された皇室身位令により、皇族の男子は特別



大正天皇 (大正4年6月)



貞明皇后 (大正5年7月)



三笠宮崇仁親王殿下と3人のお兄様方 (大正10年9月5日)
向かって左より皇太子裕仁親王 (昭和天皇)、崇仁親王殿下、宣仁親王 (高松宮)、雍仁親王 (秩父宮)



崇仁親王殿下、満1歳のお誕生日の前に(大正5年11月14日)

な理由がある場合のほかは、陸軍か海軍に進むことが規定されている。殿下はさらに、陸軍士官学校本科から陸軍騎兵学校、そして騎兵連隊にご勤務、陸軍大学校へと進まれ、昭和十六年にご卒業、後に参謀として勤務され、昭和二十年の終戦を迎えられた。この時、殿下は御年二十九歳であった。

戦後は、昭和二十二年四月、東京大学文学部の研究生となられ、史学の研究者としての新たな道にお進みになる。西洋史、旧約聖書、ヘブライ史を研究の対象とされ、昭和二十九年に創設された「日本オリエント学会」に参加、翌年からは東京女子大学で講師として「古代オリエント史」を講義された。昭和三十一年には、研究者としての最初のご著書『帝王と墓と民衆 オリエントのあけぼの』を出版されるが、その中で「わが思い出の記」として、次のように記されている。

敗戦後、何年かたったあるとき、わたくしは母(貞明皇后)から、こういう話を聞かされてほんとうに驚いた。それは、母としてはわたくしを軍人ではなく、文科のほうに進ませたかったのに、わたくしが陸軍にむしろ進んでいってしまった、というような意味のことである。わたくしはその当時のいきさつをよく覚えていなかったのと、寝耳に水であんまりびっぴりしたのとで、そのときは「はあ」と言っただけで終わってしまった。このこ

とは妻にも別の機会に話されたそうだから、母としては残念であったのではないだろうか。(後略)

貞明皇后のこの願いは、戦後に殿下が史学の道に進まれたことで、はからずも果たされたといえよう。殿下は、その後も研究を進められ、昭和三十九年度からは青山学院大学の講師として、また昭和六十年代から平成十四年度までは東京芸術大学美術学部の客員教授として特別講義をされた。昭和五十年には三鷹市に設立された(財)中近東文化センターの総裁となられ、平成十七年七月から名誉総裁に就任されている。さらに、各国への公式訪問や学術的国际会議への参加、史跡調査のため約三十回にも及ぶ外国旅行をされている。平成三年十一月には、フランスの「碑文・文芸アカデミー」の外国人会員に、平成六年六月には、ロンドン大学の「東洋・アフリカ研究院」の名誉会員に就任された。

こうしたご研究活動の一方で、殿下は戦後の混乱を收拾し、平和な文化国家を育成するためには、レクリエーションやスポーツが大切であることを痛感され、昭和二十六年から日本レクリエーション協会の総裁を務められ、日本フォークダンス連盟、日本スクエアダンス協会、日本スケート・フォークダンス協会などにも総裁として関係されて、その発展に大いに寄与されている。

百合子妃殿下は、子爵高木正得・邦子ご夫妻の第二女子として大正十二年六月四日にご誕生になった。高木家はもと河内丹南藩主で、明治期に爵位を受けて華族に列せられた。母方の祖父は歌人であり、東宮侍従長も務めた入江為守であり、また、昭和天皇の侍従長として知られる入江相政は叔父にあたる。妃殿下は昭和十六年に女子学習院本科をご卒業、この年の三月二十九日に、勅許のもと、殿下と正式にご婚約された。お印は「桐」である。御婚儀が執り行われたのは、同年十月二十二日、日米開戦の直前であった。戦時中は、昭和十九年に第一女子の甯子内親王(近衛甯子様)がご誕生になるお喜びもあつたが、戦災で宮邸が全焼するなど、妃殿下のご苦勞は少なくなかつた。

戦後は、殿下とともにご公務に励まれた。昭和二十三年には、恩賜財団母子愛育会の総裁に就任され、東京や地方における各種行事にご出席になり、母子保健に従事する人たちからのお話をお聞きになって、関係者を励まされた。この総裁は、平成二十二年まで務められた。また、現在に至るまで殿下と共に日本赤十字社の名誉副総裁を務められている。

その一方では、長く殿下のご研究を支えられてきた。殿下がご公務により東京大学の授業に出席できないときは、友人のノートをお借りして、妃殿下が夜



満4歳のお誕生日の前に(大正8年11月19日)

のうちに筆写されることもあったという。殿下の海外ご旅行には常に同行されて諸外国との友好親善に務められた。史跡調査に当たっては、映画やスライド撮影などもなされ、殿下のご講義の資料収集に内助の功を發揮された。そして、両殿下は五人のお子様にお生まれ、その御養育などにもお忙しいご日常をお過ごしになられた。平成二十三年にはご結婚七十年を迎えられたが、この折に発表された両殿下のご感想には、思い出とともに、お互いを想いやった深い感謝のお言葉が綴られている。

さて、本展で紹介している御服の数々は、その大きさや、殿下のご幼少のお写真から判断して、ほぼご成長に従って順次、作品番号を付けて図録に収めている。最も早いものは、大正四年十二月二日のご誕生の後、翌年一月二十三日に初めて宮中三殿にご参拝された時にお召しになった御服「産着」(作品番号1)である。このご参拝は、一般のお宮参りにあたるものである。満一歳から三歳頃までにお召しになったお和服は、すべて振袖に仕立てられ、模様を総刺繍にした振袖と、「でんち」と呼ばれる袖無し羽織と振袖の組み合わせのお和服との、二種類に大きく分けられる。でんちと振袖の組み合わせのお和服には、背



「着袴の儀」の落瀧津模様の振袖と白袴のお姿で(大正8年12月10日撮影、作品番号24)



「着袴の儀」の童形服のお姿で(大正8年12月10日撮影)



貞明皇后、照宮成子内親王とご一緒に(昭和5年8月7日)

に御紋または、伊達紋が刺繍されている。また、四歳頃までのお和服には肩上げや腰上げはほとんどなく、殿下のご成長に合わせて仕立てられているようである。

満四歳のお誕生日には、一般の七五三にあたる、着袴の儀を挙げられ、初めて袴を着けられた。着袴の儀に際して、ご両親にご挨拶のため参内された折にお召しになったのが、「振袖 黒紅綸子地落瀧津模様」(作品番号24)である。また、参内されて後、「童形服」に改められて、御前に進まれた。この「童形服」でのお写真(9頁右下)では、小葵に向鶴模様の半尻、細格子のお召(振袖)に白の長袴をお召しになり、右手に横目扇を持たれている。

このように満四歳を迎えられてからは、袴も着けられるようになり、総刺繍の振袖に白の袴を合わせてお召しになってお写真がある(38・39頁)。またご成長されるに従って、刺繍などの装飾がない、地紋のみの縹色や鶯色や浅葱色の振袖が多くなり、これらは、黒の羽織や精好の袴とともにお召しになったものである。こうしたお和服は、主にご両親からのお誕生日のお祝いとして、また、折々に貞明皇后から贈られた。

お洋服では、直線的でシンプルなデザインの上着と半ズボンの組み合わせの

セーラー服が幾つか伝えられている(42頁)。ベルトが付き、くるみボタンで、襟にリボンをつけるなど手が込んでおり、この時期の子供服の流行の一端を伝えている。また、学習院へ進まれる前年からは、詰襟の御服もお召しになった。白の詰襟(作品番号48)には、「大正十年夏御戴」との伝来があり、これを召されているお写真(7頁下)が残っている。このお写真は、皇太子(昭和天皇)が大正十年三月三日から九月三日まで半年にわたってヨーロッパ諸国を訪問されてご帰国の後、ご両親にご報告のため訪れた日光田母沢御用邸で、四兄弟おそろいで撮影されたものである。このほか、濃紺の詰襟(作品番号49)の御服の形式や、金モール糸による御紋の襟章と御紋に菊葉の帽章は、お兄様方が学習院でお召しになったものに倣ったものと考えられる。なお、学習院では、殿下が入学された大正十一年に一般学生と皇族学生の徽章の区別が廃されたことにより、殿下の制服は、一般学生と同様のものが伝えられている。

貞明皇后は、儀式でお召しになるご装束の他は、お和服をお召しになることはなかったという。戦前期まで、公式の場の服装は洋装と定められていた時代であり、それを自身で崩されることはなかった。一方で、和服を尊重されるお気持ちは強く、殿下やお兄様方(秩父宮、高松宮)を、夜に大宮御所にお招きになる時には、「和服で」と希望され、親王殿下方は、紋付に袴、妃殿下方は、訪問着をお召しになったと両殿下は回想されている(工藤美代子「母宮貞明皇后とその時代」中央公論新社、二〇〇七年)。貞明皇后はその御生涯を通じて、絹の文化を大切にされたが、その想いには並々ならぬものがあつた。皇太子妃の時代、明治三十八年に東京蚕業講習所に行啓された折に純日本種の小石丸をお持ち帰りになり、お手元で御養蚕を始められた。そして皇后になられてからは、大正三年に新築された紅葉山御養蚕所で、また皇太后になられてからも大宮御所で、昭和二十六年に崩御される前年まで御養蚕を続けられた。お手ずから蚕を手に取り、大切に、美しい繭にまでお育てになったのである。

本展で紹介する、美しく愛らしい意匠の品々には、崇仁親王殿下の健やかなご成長を願う貞明皇后の母としての想いに、わが国の絹の文化に対する深い理解とそれを伝えようとする想いも重ねられているであろう。

図版・解説



1 産着 白平絹地蓬萊紋付

絹／摺箔／一つ身、袷、豊付き
七四・〇×七六・〇

二組



大正四年十二月二日にご誕生になった崇仁親王殿下は、翌年一月二十三日に初めて宮中三殿に参拝された。これらは、その参拝のためにご両親の大正天皇と貞明皇后より拝領された産着で、同じものが二領伝えられている。一方が袷を内側に折って縫い付けてあることから、こちらが実際にお召しになったものと考えられる。背縫いのない一つ身に仕立てられ、背の中央に「背守」と呼ばれる点線状の飾り縫いが付けられている。これは、幼児は背中から魔物がとりつきやすい、背に縫目のない着物を着ると魔がさす、と言われたことから、お守りとして飾り付けられる伝統的なもの。また御紋を中心に据えた蓬萊紋が型による摺箔で表されているが、こうした装飾は江戸時代以来の皇族や公家で用いられた産着に見られるもので、本品はその伝統を伝えている。

2 振袖・袖無し羽織 白紋縮緬地

一組

絹／刺繍／一つ身、単
 (振袖)六四・〇×六四・〇 (羽織)丈五二・九



作品番号2と3は共に、菊桐立涌の模様が表された縮緬地で、それぞれ単衣と袷に仕立てられて袖無し羽織をとまなう。御紋は刺繍である。袖無し羽織は、保温のために武士が殿中で着用した殿中羽織から転じて、「でんち」と呼ばれる。また、宮家に伝えられた振袖の多くは、白色の襲とともに伝えられており、これらのうちの袷仕立ての振袖(作品番号3)も襲を伴っている。

3 振袖・袖無し羽織 白紋縮緬地

一組

絹／刺繍／一つ身、袷、襲付き
 (振袖)六五・一×六六・八 (羽織)丈五八・八



満2歳のお誕生日を前に(大正6年11月13日)

4 振袖 桃色紋縮緬地 菊桜折枝雲立涌鳥丸模様 一組

絹／刺繍／一つ身、衿、襲付き
六七・五×六七・〇



満2歳のお正月に (大正7年1月20日)



可愛らしい色目に藤花模様が織り表された紋縮緬地に、桜と菊の花枝と雲立涌に鳥丸紋が金糸や鮮やかな色糸で縫い取られている。

5 振袖 白茶紋紗縮緬地 松撫子鶯模様

絹／刺繍／四つ身 単、襲付き
六八・四×六七・四

一組



青海波に蘆舟模様の紋紗縮緬地に、色系で白鷺、松かさをつけた松樹と撫子を表しており、古くからの浜松図から発展した紋様構成であることがうかがえる。そして、さらに有職文を意識した花文を金糸で刺繍して、華やかさを加えている。





雲形に染め分けた縮緬地に、背と袖に梅、菊、蘭、竹の四君子の花木を
取り合わせた紋を刺繍している。このように紋を付ける位置に、紋の
代わりに自由なデザインで裝飾するものを伊達紋と呼ぶ。



6 振袖 染分縮緬地 四君子伊達紋付
絹/染、刺繍/四つ身、袷、襲付き
六八・四×六七・四

一組

7 振袖 紫紋縮緬地 竹梅水仙花模様

絹／刺繍／四つ身、袷、襲付き
六七・〇×六七・六

一組



華やかさのある明るい紫色の斜縞の紋縮緬地に、初春を象徴する草花木と雪花紋が刺繍され、暗れ着に相応しい吉祥の意が込められている。斜縞模様が、背縫いでは少しずらして仕立てている点に、この時期のデザイン感覚がうかがえる。



8 振袖

浅葱紹地 秋草浮線綾模様

一組

絹／刺繍／四つ身、単、襲付き
六八・四×六七・八

萩や桔梗、女郎花などの秋草模様
に、金糸で浮線綾と呼ばれる有職
文を散らして刺繍している。浮線
綾は、もともと緯糸を浮かせて文
様を織り出す浮織のことをいう
が、転じて花文を変じた大型の円
文を指して呼ぶようになった伝統
的な有職文の一つ。

9 振袖 薄萌黄綾地 鶴破れ花菱亀甲に紅葉藤菊折枝模様

絹／刺繍／四つ身、袷、襲付き
六七・〇×六八・四

一組



満3歳のお誕生日を前に (大正7年11月22日)

縮緬地の振袖が多い中で、本品は綾地で、地紋は扇散らし模様が表されている。刺繍は、鶴と亀甲花菱が組み合わせた「鶴亀」の吉祥模様にも、紅葉、藤、菊の折枝が色鮮やかに縫い取られている。



10

和服用のマント・帽子
絹／縹子地、刺繍
六二・二×九七・〇
クリーム色

一組



満3歳のお誕生日を前に(大正7年11月22日)
作品番号9の振袖の上に作品番号10のマントを
お召しになっている。

アール・デコ調の植物の装飾模様が刺繍されたマントと帽子は、防寒のために和服の上にお召しになったもの。マントはいわゆるインパネスコートと同じ構造に仕立てられている。英国に起源のあるインパネスコートは明治期に日本にもたらされ、着物の袖が無理なく着装できることから、大正から昭和期にかけて、男性の和装用コートとして流行した。



11 和服用のマント・帽子 鼠色

絹／ビロード、刺繍
六八・六×九八・〇

一組

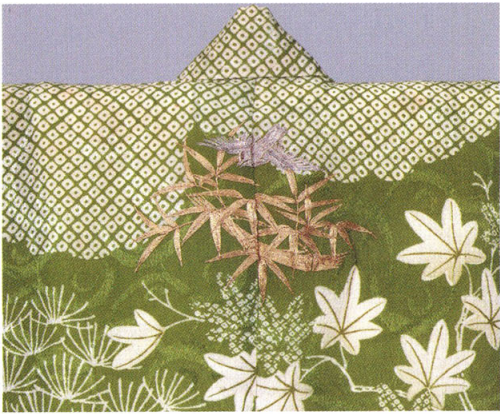
12 振袖・袖無し羽織 萌黄紋縮緬地 雲桜松紅葉模様

絹／染、刺繍／四つ身、単
 (振袖) 六六・八×六八・四 (羽織) 五五・五×三一・七

一枚



振袖とでんち(袖無し羽織)の揃いのお着物。紋縮緬は万寿菊の模様か。振袖の背には刺繍による竹に雀の伊達紋を背に一つ紋で、また羽織の背には刺繍で御紋を表している。



13 振袖・袖無し羽織 紫絞染紋縮緬地 糸菊伊達紋付

絹／染、刺繍／四つ身、袷
 (振袖) 六八・二×六八・四 (羽織) 五七・五×三三・二

一組



地紋を紗綾形に竹の模様とした紋縮緬に、大柄の花模様を絞り染めで表した近代的意匠の裂地で仕立てたもの。刺繍による糸菊の折枝を伊達紋として三箇所配している。



14 振袖・袖無し羽織 紫斑染縮緬地 一組

絹/染、刺繍/四つ身、袷
 (振袖)六七・四×六八・八 (羽織)五六・七×六四・〇



雲形の斑染めによる振袖とでんち。御紋は刺繍技法により、金糸を巻き置いて赤糸で留め付け、周りを紫の糸で縁取りしている。



15 振袖・袖無し羽織 鶺鴒色紋縮緬地 若松鶴模様 一組

絹/刺繍/四つ身、袷
 (振袖)七〇・〇×六九・〇 (羽織)五九・一×三三・五

紋縮緬の地紋は菊立涌模様。裾模様として、身頃と袖の中間から下部にかけて、若松と鶴を刺繍している。



16 振袖・被布 紫変わり紋縮緬地 若松鶴伊達紋付

一枚

絹／刺繍／四つ身、袷
(振袖)六九・二×七〇・〇 (被布)五九・四×七〇・六



振袖と被布は、共に同じ裂地によって仕立てられたもの。紋縮緬は竹模様で、葉の部分に縫取織を加えている。いずれも、若松に鶴の一つ紋が、刺繍で表されている。



17 振袖 白紋縮緬地 燕模様

一組

絹／刺繍／四つ身、袷、裏付き
七〇・三×七〇・〇



群鶴模様を表した紋縮緬地に、様々な姿で飛翔する燕を刺繍する。燕の様子は吉祥の意があり、また俊敏さを表すものとして古くから工芸品の意匠に取り入れられている。

18 振袖 紫菊海松立涌紋縮緬地

一枚

絹／刺繍／四つ身、袷
七〇・一×七〇・〇



菊と海松の立涌模様を表した紋縮緬で、一部に白糸による刺繍をデザインとして加えており、洒落た感覚が窺える。御紋も白糸による刺繍である。

19

振袖 紫斑染縮緬地

絹/染、刺繍/四つ身、単
七四・五×七五・四

一枚



雲形に斑染めされた紋縮緬地で、地紋は斜縞に千鳥模様。御紋は刺繍による。

20

振袖 薄黄縮緬地 朽木菖蒲楓芍薬丸模様

絹/刺繍/四つ身、単、裏付き
七六・〇×七六・二

一組



夏物の着物らしく、薄黄色の縮地に初夏を彩る芍薬の丸紋、青楓と菖蒲の折枝、それに朽木の文様が散らされている。殿下御幼少時の御服類の中で、縮や紹の振袖にともなう裏は、本品のように、袂や裾から裏が出るよう着物より少し大きく仕立てられているのが特徴である。

21 振袖・袖無し羽織 紫変わり紋縮緬地・山吹茶色斑染紋縮緬地 桜模様 一枚
 絹/染、刺繍/四つ身、単
 (振袖)七四・七×七七・〇 (羽織)五七・二×三二・五



振袖は縦縞に枝垂れ柳の模様を織り表した変わり紋縮緬である。でんち(袖無し羽織)は、山吹茶色の斑染とした、卍繫模様の紋縮緬地で、友禅染で桜模様を表している。刺繍による竹に雀の伊達紋を付ける。



22

振袖 紫紋縮緬地 檜梅模様 一枚
 絹/染、刺繍/四つ身、袷
 七〇・七×七七・二



藤立涌模様の紋縮緬地に、型友禅で檜梅模様を表した振袖で、御紋は刺繍による。

絹/染、刺繍/四つ身、衿、襲付き
七七・〇×七七・六



満4歳のお誕生日の前に(大正8年11月19日)

紫と白の横縞に染め分けた縮緬地に、刺繍で梅、桜、藤、撫子、楓、菊の花扇を表している。その間に散らされているのは、檜扇などに伝統的に用いられる蝶鳥模様である。



24 振袖 黒紅紬子地 落漣津模様、白長袴・白袴 生絹地 一組

絹／刺繍／四つ身、衿、襲付き
(振袖) 七三・五×七八・八 (長袴) 丈八五・五 (切袴) 丈五五・三



殿下は、着袴の儀の御年齢となる大正八年の満四歳のお誕生日の日、前日に大正天皇より拝領された落漣津模様の御服に白の切袴を着けて、ご両親にご挨拶をされた。この模様の形に菊蘭を織り表した紬子地に、勢いよく流れ落ちる瀧と、岩に波、橘と松を刺繍で表している。いずれも子供の健やかな成長と長寿を願う、吉祥模様である。





絹／刺繍／四つ身、単、襲付き
七五・三×七八・六



中央より上部には雲間に松と紅葉、下部には可憐な秋草に鶉という吉祥図様を、巧みな糸遣いで細かな表現まで総刺繍で表した晴れ着である。江戸後期以降、公家の小袖等に見られる意匠の伝統を引き継いでいる。

大正9年夏の頃に

26 振袖 浅葱縦縞地 雲鶴模様

一枚

絹/染、刺繍/四つ身、単
七三・七七×七九・〇



浅葱色の縦縞地に、海松色の雲形を斑染めし、袖、身頃の上部と裾の各所に鶴を刺繍している。いわゆる伝統的な雲鶴模様を、近代的な感覚で意匠化したもの。

27 振袖 浅葱縮地 柳桔梗朝顔花菱模様

一組

絹/刺繍/四つ身、単
七六・八×八〇・八



鮮やかな赤色の朝顔、白花の桔梗、柳を散らし、合間に近代的に装飾化された花菱を刺繍で表す。襟と袖にのみ白麻の裏を付けている。

伝統をつなぐ品々

本展で紹介する三笠宮崇仁親王殿下御幼少の折の御服類は、わが国で最も伝統と格式を重んじる皇室という場で、母としての貞明皇后が、わが子の健やかな成長を願って誂えられたものである。お誕生日や新年など、毎年の折々の節目に際し、成長を喜び祝う母親の切なる想いが込められたこれらの御服類は、とにかく可愛らしく美しい。その一方で、それらは染織技術と意匠の伝統を途絶えることなく次代へ伝える役目を果たしており、制作時期が明らかになし、これだけまとまって当時の高度な技術等による品々が保存されていたことの近代染織史における意義は大きい。

江戸から明治へと時代が移行行く際、繊維産業、染織産業が近代化を図る国策の中で受けた打撃は少なくなかったが、その中心地であった京都では西欧の先進技術の習得を進めるためにフランスやドイツに研修生を



上〈作品番号24部分〉／中〈作品番号7部分〉／下〈作品番号17部分〉

派遣し、また技術や機織の導入、製品資料の収集などを意欲的に行って近代染織発展の地固めが行われた。その結果、明治十年代以降、次第に新たな技術開発、図案の刷新などが図られ、近代染織らしい特色を生み出していくこととなる。着物においては、多彩で鮮明な色彩を示す化学染料が次第に主流となり、明治半ば頃からは明るい色彩の着物が流行していく。文様も、江戸時代末までの典型的な吉祥文や風景、花鳥等の模様ではなく、京都画壇の画家や、伝統的図様や西欧から流入

されたことになり、古典的なもの、モダンなものなどが様々に展開した。特に明治末頃から大正期にかけては、十九世紀末にヨーロッパで興ったアール・ヌーヴォーの装飾的な図案、洋式図案など、伝統的な文様や図案とは大

きく異なった近代的な装飾性が展開されることになる。こうした中で、三笠宮殿下ゆかりの御服類は、伝統的技術を引き継ぎながら近代の染織技法をいかし、またその意匠も伝統的でありながら、配色や文様の大きさ、形等が時代に応じた感覚で表された品々である。

織地と装飾技法から見ると、江戸時代中期以降の高雅、優雅な小袖や振袖が、紵子地や綾地、縮緬地といった美しい織地に、刺繍や友禅染などの加飾技法を用いて色彩豊かな美しい文様で装飾されてきたその伝統が、殿下の御服類の装飾技術にも継承されている。しかし、伝統的で格式の高い種々の文様は、近世期のしなやかさで上品な趣きのものに比べて鮮明な色彩と文様の大きさが際立つ。それは、この時期の染色は化学染料が主流であることにより、色斑が少なく、色彩の明度も高く、発色が明確であることによるもので、近代染織の一



上〈作品番号22部分〉／中〈作品番号9部分〉／下〈作品番号23部分〉

つ大きな特色でもある。地色の色目の美しき、鮮やかさばかりではなく、刺繍糸の使い方による繊細な表現もまた、多彩な染め糸でやんわりと暈かして表現したり、あえて全く色調の異なる糸で細かな表現を強調したりと、工夫が凝らされている。その上で、総刺繍による加飾を中心として、親王の御召物に相応しい品格を備えていると言える。そして、友禅染の表現に用いられている鮮やかな化学染料は、伝統的な文様に洒落た時代感を与えている。

また、文様においては圧倒的に伝統性が強いことが特徴で、有職文、吉祥の意味合いのある文様を中心に構成されている。波状の縦曲線を左右に相対させ、膨らんだ部分に雲や藤などの文様を配する立涌文、菱形状の花文である花菱、鳳凰の円文や浮線綾、亀甲繫の文様などは、公家装束の伝統として平安時代より用いられてきた有職文である。また、歳寒三友、あるいは四君子と称される松、竹、梅、蘭、菊は、長寿高潔さを示して祝意を示す際の代表的な文様として古くから吉祥を

意図する際に用いられ、鶴や蓬莱山もまた、古来より寿ぎを象徴する。鯉や鶉、雀は中国思想の影響を受けて吉祥図案として採り入れられたもの、燕は物語や姿、生態から縁起の良いものとされる。刺繍に見られる桜や藤、撫子や紅葉、秋草などの可憐な花草木は、江戸時代の小袖や振袖などで盛んに好まれた題材で、扇散らし、雪花、楽器の文様も江戸期に染織文様として流行したものである。そして織地文に見られる青海波や紗綾形、縞、立涌は、江戸時代の高級品に見られるものであり、それぞれの文様は、古くからの有職、そして江戸時代以来の装飾意匠の伝統を引き継いでいることが指摘できている。こうした伝統的文様を自由に組み合わせ意匠化している点にも、この時期の染織品としての特徴を見出すことが出来る。紫と白の横縞の振袖(作品番号23)に刺繍で表された扇散らしの意匠は、江戸時代以来、非常に好まれたものであるが、扇面部分を四季の花草木で表現しており、近世の宮中行事に見られる花扇を想起させる。また、扇面の間には公家装束の一具にある檜

扇の裏面に伝統的に描かれる蝶鳥文が散らされることも、親王の御服であるという意識をもって伝統性を重視しながら、意匠が大様にまとめられている点には近代的感覚が表れていて興味深い。ところで、これらの中でも優れた染織技法を示しているのは、殿下数え年五歳の御誕辰に大正天皇より賜られた落瀧津文様の御服(作品番号24)である。紗綾形に竹と蘭を表した縞子地に、江戸時代以来の伝統的な図様を表した縞綾は、金糸を多く用い、化学染料による鮮やかな朱や青緑等の色系による精緻で破綻のないもので、親王の儀式に用いられる御服という格の高さに相応しい謹厳さを示している。三笠宮殿下の後、天皇家の親王の着袴、深曾木の儀式は、昭和十三年五月五日に皇太子明仁親王殿下(天皇陛下)がやはり落瀧津文様の御服をお召しになって行われた。そして、以後、天皇家の親王の成長に伴う伝統的儀式の一つとなったこの儀式で着用される落瀧津文様の御服は、三笠宮殿下のこの御服の色や文様等がその規範となり、踏襲されているのである。

28 茶ビロード地洋服・帽子、白ブラウス 一組

絹／ビロード
(上)丈四一・二 肩幅三二・〇 (下)丈三八・〇



宮家に伝えられた洋服類のうち、最も小さなもの。丸襟の上着で、白クレープ地のブラウスの襟と袖のフリルが可愛らしいお品。

29 紺セーラー服・帽子 一組

ウール
(上)丈四七・五 肩幅三九・七 (下)丈四〇・四



ウール
 (上)丈四五・五 肩幅三九・七 (下)丈四三・三



大正9年10月18日撮影のお写真

十九世紀半ば、英国のヴィクトリア女王が水兵服のデザインを気に入り、子供服に仕立てて幼い王子たちに着せたことが契機となり、二十世紀初頭にはセーラー服が子供服として世界的に流行した。皇室でも、崇仁親王殿下のお兄様方(昭和天皇、秩父宮、高松宮)も皆、ご幼少時にセーラー服をご着用になったことがお写真より知られる。

31 振袖 紫平絹地 雲立涌尾長鳥花折枝模様 一枚

絹／染、刺繍／四つ身、袷
七六・一×八二・二



紫の平絹地に雲立涌模様を白く染め抜き、所々に尾長鳥と花枝を刺繍している。



大正9年10月18日撮影のお写真

32 白袴 生絹地 一枚

生絹 丈六二・二



作品番号31・33の御振袖と共にお召しになったもの。

絹／刺繍／四つ身、衿、裏付き
七七・二×八一・四

一組



大正9年10月18日撮影のお写真

貞明皇后にご覧いただくために、またご成長の記録として、美しい御服を召された殿下の愛らしい姿は、折々に撮影されている。37～39頁までのお写真は同日撮影のもので、左写真の背景のタベストリーから、皇居紅葉山にあった撮影所のお写真とわかる。

34

振袖 紺紋縮緬地

絹／四つ身、袴
七五・九×八二・六

一枚



御紋は白上げに墨書きによる。紋縮緬は菊立涌に松と桐の丸模様。

35

振袖 縹変わり紋縮緬地

絹／四つ身、単、襲付き
七九・〇×八二・六

一組



縦縞に蝶模様の変わり紋縮緬地。蝶の部分は麻葉繫の模様で表さ
れている。襲は生絹で、襟部分で着物に縫い付けてある。御紋は白
上げで墨書きによる。

36

振袖 白地錨に波模様

一枚

麻/染/四つ身、単
八一・二×八二・八



波に錨と紅葉の裾模様は手書き友禅によるもの。夏らしく、また近代らしい図様である。

37

振袖 浅葱紵地

一枚

絹/四つ身、単
七八・六×八四・〇



爽やかな浅葱色の紵で仕立てられている。御紋は白上げで墨書きによる。

38

黒リボン付き紺セーラー服 一組

ウール (上)丈五〇・九 (下)丈三九・九



大正10年頃(『皇族画報』大阪毎日新聞社、大正11年より複写転載)

39

紫リボン付き紺セーラー服

一組

絹と麻の混紡平織 (上)丈四八・二 肩幅三〇・二 (下)丈四〇・〇



〔参考〕赤紫リボン付き紺セーラー服



白コート・帽子 一組

ウール
丈四九・九 肩幅二九・〇



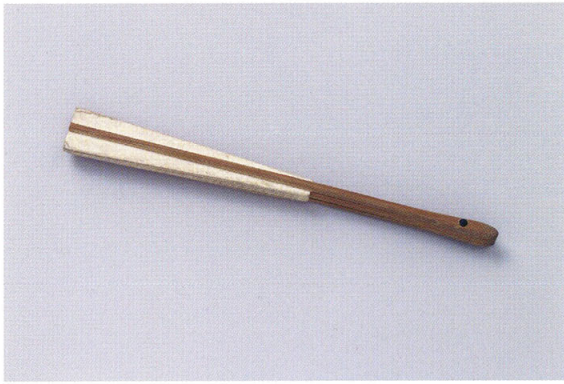
満6歳の頃(大正10年9月27日)



41 振袖・黒羽織・袴 一組

絹／四つ身、袷
(羽織) 六六・一×八四・〇 (振袖) 七五・四×八二・〇 (袴) 丈六三・八

《参考》



振袖の地紋は桐に花喰鳥模様、御紋は白上げ。黒羽織は平絹で、袴は縦縞模様精好。草履と扇子、足袋と共に伝えられている。着袴の儀を終えられて成長された後は、このような黒羽織と袴も着装されたことが、宮家に伝えられるこのほかの振袖の黒羽織から窺える。



学習院初等科1年、満7歳のお誕生日を前に
(大正11年11月15日)



満4歳のお正月(大正9年1月17日)

42 振袖 鶯色紋縮地

絹／四つ身、単
七九・九×八三・四

一枚



波千鳥模様の紋縮による振袖。御紋は白上げ、墨書きによる。

43 筒袖 薄浅葱紋縮緬地

絹／四つ身、袷
七六・七×八四・二

一枚



枝垂れの桜と柳、菊、桐、竹が表された紋縮緬地による筒袖の着物。男児用の着物や、男物の着物や丹前などにこの形の袖を用いていた。殿下の御服類の中では唯一のもの。



振袖

臙脂縮緬地 四季草木器物鶴
模様 一組

絹／刺繍／四つ身、袷、裏付き
七八・九×八五・四

四季の花木や草花と器物を取り合わせた模様を刺繍で表している。
 「松に鶴」「紅葉に瓢」「菊に琴柱」
 「藤に盃」「梅に短冊」「秋草に笙」
 「桜に鼓」「柳に鞆」の物語や謡曲に
 関連する八種の文学的意匠を、繊
 細な糸遣いで丁寧に表示した晴れ
 着である。



45 振袖 海松色縮緬地 流水鯉 鳶撫子模様

絹／刺繍／四つ身、単、襲付き
八一・二×八六・六

一組



上部に舞い飛ぶ白鷺を、下部には流水に鯉、撫子の花を大きく刺繍し、流水には蛇籠も配している。江戸期小袖の意匠を受け継いでいる。

46 振袖 薄海松色綾地

絹／四つ身、袷
八九・五×九四・六

一枚



綾地には破れ立涌に桜菊の花枝、雲に海松の模様が織り表される。共帯はなく、白平絹の紐が付けられている。なお、本品以外の振袖にはすべて共帯が付けられている。

絹／狩衣・綾、紋紗、平絹、指貫、指貫・平絹、緞子
(狩衣) 七六・七×一〇一・二一 (指貫) 丈七〇・〇



白地小葵文綾



学習院初等科3年生、大正13年10月23日



紫平絹



薄紫三重襷模様紋紗

箱書きに「御拝服」とあり、特別なお祀りの拝礼の折にお召しになったもの。上着は狩衣の形式ながらも、共帯が付き、腋が飾り紐で綴じられ、指貫も裾を紐で絞るのではなく、襷を寄せた膨らみを持たせた形に仕立てられており、他に類例のない形式の御服である。殿下の拝礼用として、貞明皇后が考案されたものではないかと推察する。狩衣は白地小葵文綾(袴)、薄紫三重襷模様紋紗(単)、紫平絹(単)の三種があり、指貫は鼠地窠に霞模様緞子と白平絹の二種がある。



鼠地窠に霞模様緞子



白平絹

木綿 丈四〇・〇 肩幅三二・〇



大正10年9月5日撮影のお写真



作品番号48は「大正十年夏御戴」との伝来がある。作品番号49とともに御服の形は学習院初等科の制服とほぼ同じであるが、帽子正面の記章は御紋に菊葉をかたどったもので、襟の記章もまた御紋である。ご入学の前年からご入学の春頃まで、お召しになった詰襟の御服である。

49 学習院初等科制服風の御服・帽子 一組

ウール (上) 丈三九・〇 肩幅二六・〇 (下) 丈三八・四



学習院初等科ご入学の頃(大正11年4月20日)

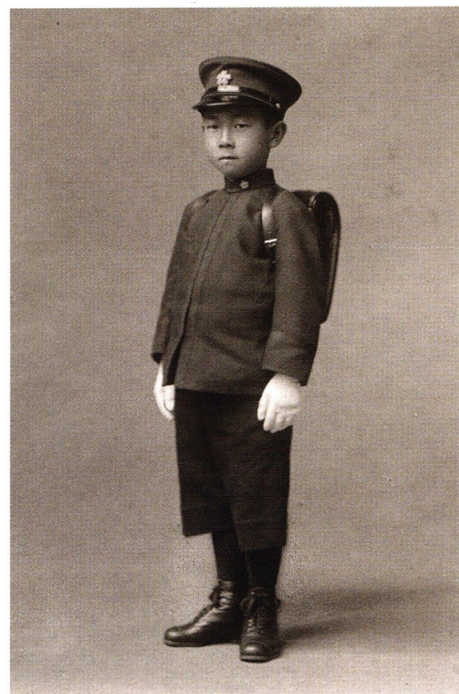


50

学習院初等科制服(正服)

一組

ウール (上)丈五二・七 肩幅一九・三 (下)丈五五・七



学習院初等科1年、満7歳のお誕生日を前に
(大正11年11月15日)



51

学習院初等科一年の運動服・地下足袋

一組

木綿 (上)丈四六・二 (下)丈三八・九

初等科一年の初めての運動会でお召しになった運動服と地下足袋。

木綿 (上) 丈五二・七 肩幅二九・四 (下) 丈五五・〇



学習院初等科の夏服である。学習院の制服は、紺色のを「正服」と呼び、一方カーキ色の夏服は「略服」と呼ばれた。明治38年から昭和14年まで、カーキ色のものが夏服として採用されていた。



ウール 丈七〇・五 肩幅三〇・〇



学習院初等科3年生の頃(大正13年10月23日)

54 野球チーム「青山澄宮」のユニホーム 一組

木綿 (上) 丈五五・九 肩幅三二・八 (下) 丈五二・〇



大正十二年の夏休みを日光でお過ごしになる間に野球を覚えられ、これ以後、野球に打ち込まれた。「青山澄宮」チームを結成され、この頭文字「AS」の入った二種類のユニホームが伝えられている。チームでの殿下のポジションはファースト。

55 野球チーム「青山澄宮」のユニホーム 一組

ウール (上) 丈六一・四 肩幅三四・五 (下) 丈六八・八



56 水泳帽 五点

木綿 巾一六・〇



学習院初等科四年より沼津御用邸近くの遊泳場での水泳演習にご参加され、小堀流の古式泳法を学ばれた。いずれの水泳帽にも「澄宮」と刺繍や墨書で記されている。泳力によって帽子の色が異なっていた。



表中央に「澄宮」と革に記されて縫い付けられている。ベルトに装着する小物入れ。

58 乗馬用キョロット

木綿 丈七六・七

一点

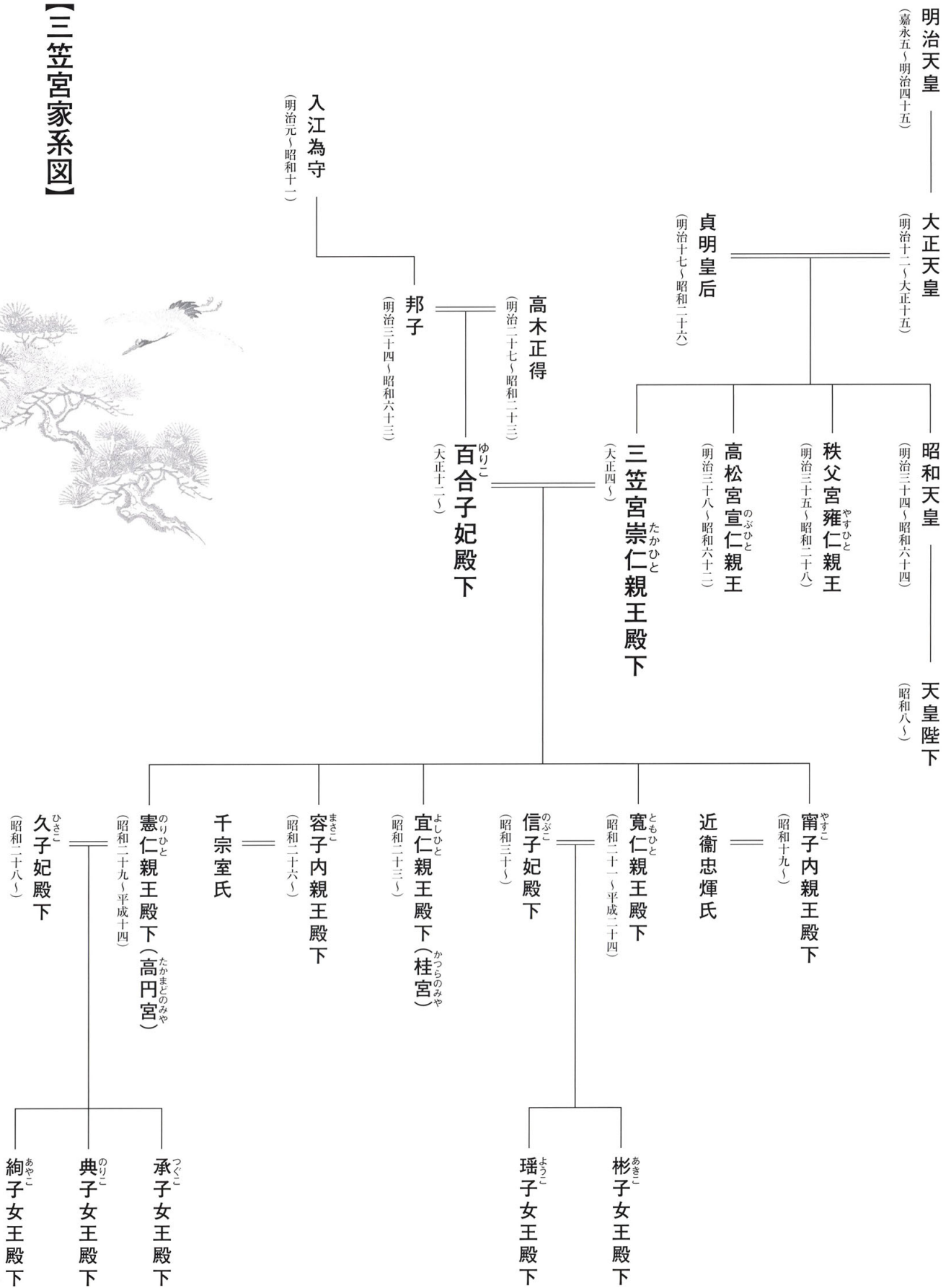


「昭和二年夏 御乗馬御始まり第一番に召されたるキョロット」との伝来がある。崇仁親王殿下はこの年、初等科六年から本格的に乗馬を習われた。後に陸軍に入られたのも「大いに馬という魅力があったのかもしれない」と記されている(御著書「帝王と民衆」のうち「わが思い出の記」より)。



乗馬服のお姿で。学習院中等科一年、満13歳のお誕生日を前に(昭和3年12月3日)

【三笠宮家系図】



出品目録

作品番号 作品名

員数

技法・材質等

寸法 (cm) 総丈×総巾

展示期間

平成二十五年七月二十七日(土)～九月二十九日(日)
 前期：七月二十七日(土)～八月二十五日(日)
 後期：八月三十一日(土)～九月二十九日(日)

1	産着 白平絹地蓬萊紋付	二組	絹/摺箔/二つ身、袷、襲付き	七四・〇×七六・〇	前期・後期
2	振袖・袖無し羽織 白紋縮緬地	一組	絹/刺繍/二つ身、単	(振袖)六四・〇×六四・〇 (羽織)丈五・二九	後期
3	振袖・袖無し羽織 白紋縮緬地	一組	絹/刺繍/二つ身、袷、襲付き	(振袖)六五・一×六六・八 (羽織)丈五・八八	前期
4	振袖 桃色紋縮緬地 菊桜折枝雲立涌鳥丸模様	一組	絹/刺繍/二つ身、袷、襲付き	六七・五×六七・〇	前期
5	振袖 白茶紋紗縮緬地 松撫子鷺模様	一組	絹/刺繍/四つ身、単、襲付き	六八・四×六七・四	前期
6	振袖 染分縮緬地 四君子伊達紋付	一組	絹/染、刺繍/四つ身、袷、襲付き	六八・四×六七・四	後期
7	振袖 紫紋縮緬地 竹梅水仙雪花模様	一組	絹/刺繍/四つ身、袷、襲付き	六七・〇×六七・六	前期
8	振袖 浅葱縮緬地 秋草浮線綾模様	一組	絹/刺繍/四つ身、単、襲付き	六八・四×六七・八	後期
9	振袖 薄萌黄綾地 鶴破れ花菱亀甲に紅葉藤菊折枝模様	一組	絹/刺繍/四つ身、袷、襲付き	六七・〇×六八・四	後期
10	和服用のマント・帽子 クリーム色	一組	絹/縹子地、刺繍	六二・二×九七・〇	後期
11	和服用のマント・帽子 鼠色	一組	絹/ビロード、刺繍	六八・六×九八・〇	前期
12	振袖・袖無し羽織 萌黄紋縮緬地 雲桜松紅葉模様	一枚	絹/染、刺繍/四つ身、単	(振袖)六六・八×六八・四 (羽織)五五・五×三二・七	前期
13	振袖・袖無し羽織 紫絞染紋縮緬地 糸菊伊達紋付	一組	絹/染、刺繍/四つ身、袷	(振袖)六八・二×六八・四 (羽織)五七・五×三三・二	後期
14	振袖・袖無し羽織 紫斑染縮緬地	一組	絹/染、刺繍/四つ身、袷	(振袖)六七・四×六八・八 (羽織)五六・七×六四・〇	後期
15	振袖・袖無し羽織 鶉色紋縮緬地 若松鶴模様	一組	絹/刺繍/四つ身、袷	(振袖)七〇・〇×六九・〇 (羽織)五九・一×三三・五	後期
16	振袖・被布 紫変わり紋縮緬地 若松鶴伊達紋付	二枚	絹/刺繍/四つ身、袷	(振袖)六九・一×七〇・〇 (被布)五九・四×七〇・六	前期
17	振袖 白紋縮緬地 燕模様	一組	絹/刺繍/四つ身、袷、襲付き	七〇・三×七〇・〇	後期
18	振袖 紫菊海松立涌紋縮緬地	一枚	絹/刺繍/四つ身、袷	七〇・一×七〇・〇	前期
19	振袖 紫斑染縮緬地	一枚	絹/染、刺繍/四つ身、単	七四・五×七五・四	前期
20	振袖 薄黄縮緬地 朽木菖蒲楓芍薬丸模様	一組	絹/刺繍/四つ身、単、襲付き	七六・〇×七六・二	前期
21	振袖・袖無し羽織 紫変わり紋縮緬地・山吹茶色斑染紋縮緬地 桜模様	一枚	絹/染、刺繍/四つ身、単	(振袖)七四・七×七七・〇 (羽織)五七・二×三二・五	前期
22	振袖 紫紋縮緬地 檜梅模様	一枚	絹/染、刺繍/四つ身、袷	七〇・七×七七・二	前期
23	振袖 紫白染分縮緬地 花扇蝶鳥模様	一組	絹/染、刺繍/四つ身、袷、襲付き	七七・〇×七七・六	後期
24	振袖 黒紅綸子地 落瀧津模様、白長袴・白袴 生絹地	一組	絹/刺繍/四つ身、袷、襲付き	(振袖)七三・五×七八・八 (長袴)丈八・五・五 (切袴)丈五・三	後期
25	振袖 濃縹縮緬地 紅葉秋草鶉模様	一組	絹/刺繍/四つ身、単、襲付き	七五・三×七八・六	前期
26	振袖 浅葱縦縮緬地 雲鶴模様	一枚	絹/染、刺繍/四つ身、単	七三・七×七九・〇	前期
27	振袖 浅葱縮緬地 柳桔梗朝顔花菱模様	一組	絹/刺繍/四つ身、単	七六・八×八〇・八	後期

28	茶ビロード地洋服・帽子、白ブラウス	一組	絹／ビロード	(上)丈四一・二 肩幅三一・〇 (下)丈三八・〇	後期
29	紺セーラー服・帽子	一組	ウール	(上)丈四七・五 肩幅三九・七 (下)丈四〇・四	前期
30	白セーラー服	一組	ウール	(上)丈四五・五 肩幅三九・七 (下)丈四三・三	後期
31	振袖 紫平絹地 雲立 浦尾長鳥花折枝模様	一枚	絹／染、刺繍／四つ身、袷	七六・二×八二・二	後期
32	白袴 生絹地	一枚	生絹	丈六二・二	後期
33	振袖 黒縮緬地 梅枝小葵模様	一組	絹／刺繍／四つ身、袷、裏付き	七七・二×八一・四	前期
34	振袖 紺紋縮緬地	一枚	絹／四つ身、袷	七五・九×八二・六	後期
35	振袖 縹変わり紋縮緬地	一組	絹／四つ身、単、裏付き	七九・〇×八二・六	後期
36	振袖 白地 錨に波模様	一枚	麻／染／四つ身、単	八一・二×八二・八	前期
37	振袖 浅葱縮地	一枚	絹／四つ身、単	七八・六×八四・〇	前期
38	黒リボン付き紺セーラー服	一組	ウール	(上)丈五〇・九 (下)丈三九・九	前期
39	紫リボン付き紺セーラー服	一組	絹と麻の混紡平織	(上)丈四八・二 肩幅三〇・二 (下)丈四〇・〇	後期
40	白コート・帽子	一組	ウール	丈四九・九 肩幅二九・〇	前期
41	振袖・黒羽織・袴	一組	絹／四つ身、袷	(羽織)六六・一×八四・〇 (振袖)七五・四×八二・〇 (袴)丈六三・八	前期
42	振袖 鶯色紋縮地	一枚	絹／四つ身、単	七九・九×八三・四	後期
43	筒袖 薄浅葱紋縮緬地	一枚	絹／四つ身、袷	七六・七×八四・二	後期
44	振袖 臘脂縮緬地 四季草木器物鶴模様	一組	絹／刺繍／四つ身、袷、裏付き	七八・九×八五・四	前期
45	振袖 海松色縮緬地 流水鯉芦鷺撫子模様	一組	絹／刺繍／四つ身、単、裏付き	八一・二×八六・六	後期
46	振袖 薄海松色綾地	一枚	絹／四つ身、袷	八九・五×九四・六	後期
47	御拝服	一式	絹／狩衣・綾、紋紗、平絹、指貫・平絹、緞子	(狩衣)七六・七×一〇・二 (指貫)丈七〇・〇	前期・後期
48	学習院初等科制服風の御服	一点	木綿	丈四〇・〇 肩幅二二・〇	全期
49	学習院初等科制服風の御服・帽子	一組	ウール	(上)丈三九・〇 肩幅二六・〇 (下)丈三八・四	全期
50	学習院初等科制服(正服)	一組	ウール	(上)丈五二・七 肩幅一九・三 (下)丈五五・七	全期
51	学習院初等科一年の運動服・地下足袋	一組	木綿	(上)丈四六・二 (下)丈三八・九	全期
52	学習院初等科制服(略服)	一組	木綿	(上)丈五二・七 肩幅一九・四 (下)丈五五・〇	全期
53	学習院初等科のコート	一点	ウール	丈七〇・五 肩幅三〇・〇	全期
54	野球チーム「青山澄宮」のユニホーム	一組	木綿	(上)丈五五・九 肩幅三三・八 (下)丈五二・〇	全期
55	野球チーム「青山澄宮」のユニホーム	一組	ウール	(上)丈六一・四 肩幅三四・五 (下)丈六八・八	全期
56	水泳帽	五点	木綿	中一六・〇	全期
57	ポシエット	一点	木綿	一九・三×一四・九	全期
58	乗馬用キュロット	一点	木綿	丈七六・七	全期

謝辞

本展覧会の開催にあたり、左記の方々にご協力をいただきました。ここに記して深く感謝の意を表します。

東京藝術大学美術館

長崎巖、西井智美、横溝廣子、小山弓弦葉、長佐古美奈子

(敬称略・順不同)

三笠宮家ゆかりの染織美——貞明皇后いつくしみの御心

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 63

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十五年七月二十七日発行

© 2013, The Museum of the Imperial Collections

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

三笠宮家ゆかりの染織美——貞明皇后、いつくしみの御心

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 63

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十五年七月二十七日発行

© 2013, The Museum of the Imperial Collections

- 28
Brown velvet suit, hat, and white blouse
one set
silk, velvet
(upper wear) length 41.2 shoulder length 31.0
(lower wear) length 38.0
- 29
Navy blue sailor suit and hat
one set
wool
(upper wear) length 47.5 shoulder length 39.7
(lower wear) length 40.4
- 30
White sailor suit
one set
wool
(upper wear) length 45.5 shoulder length 39.7
(lower wear) length 43.3
- 31
Furisode, designs of cloud *tatewaku*, long-tailed birds, and floral branches on purple plain silk
one piece
silk, dyeing and embroidery
76.1 × 82.2
- 32
White *hakama*
one piece
raw silk
length 62.2
- 33
Furisode, designs of *ume* branches and *koaoi* patterns on black crepe
one set
silk, embroidery
77.2 × 81.4
- 34
Furisode, navy blue patterned crepe
one piece
silk
75.9 × 82.6
- 35
Furisode, light blue fancy patterned crepe
one set
silk
79.0 × 82.6
- 36
Furisode, designs of anchors and waves on white ground
one piece
hemp, dyeing
81.2 × 82.8
- 37
Furisode, light blue silk gauze
one piece
silk
78.6 × 84.0
- 38
Navy blue sailor suit with black ribbon
one set
wool
(upper wear) length 50.9 (lower wear) length 39.9
- 39
Navy blue sailor suit with purple ribbon
one set
plain weave, mixture of silk and hemp
(upper wear) length 48.2 shoulder length 30.2
(lower wear) length 40.0
- 40
White coat and hat
one set
wool
length 49.9 shoulder length 29.0
- 41
Furisode, black *haori*, and *hakama*
one set
silk
(*haori*) 66.1 × 84.0 (*furisode*) 75.4 × 82.0
(*hakama*) length 63.8
- 42
Furisode, light yellow green patterned silk gauze
one piece
silk
79.9 × 83.4
- 43
Tsutsusode (tight sleeved kimono), pale light blue patterned crepe
one piece
silk
76.7 × 84.2
- 44
Furisode, designs of plants and trees of the four seasons, vessels and cranes on dark red crepe
one set
silk, embroidery
78.9 × 85.4
- 45
Furisode, designs of flowing water, carps, reeds, herons, and fringed pinks on dark yellow green crepe
one set
silk, embroidery
81.2 × 86.6
- 46
Furisode, yellow green twill
one piece
silk
89.5 × 94.6
- 47
Worshipping robes
one set
silk, *kariginu*:twill, patterned gauze, plain silk, *sashinuki*:plain silk, satin damask
(*kariginu*) 76.7 × 101.2 (*sashinuki*) length 70.0
- 48
Gakushuin Primary School uniform style clothing
one piece
cotton
length 40.0 shoulder length 22.0
- 49
Gakushuin Primary School uniform style clothing and hat
one set
wool
(upper wear) length 39.0 shoulder length 26.0
(lower wear) length 38.4
- 50
Gakushuin Primary School uniform
one set
wool
(upper wear) length 52.7 shoulder length 29.3
(lower wear) length 55.7
- 51
Gakushuin Primary School first grade gym uniform and *jikatabi* (split-toed shoes with rubber soles)
one set
cotton
(upper wear) length 46.2 (lower wear) length 38.9
- 52
Gakushuin Primary School summer wear
one set
cotton
(upper wear) length 52.7 shoulder length 29.4
(lower wear) length 55.0
- 53
Gakushuin Primary School uniform coat
one piece
wool
length 70.5 shoulder length 30.0
- 54
Baseball uniform of team Aoyama Suminomiya
one set
cotton
(upper wear) length 55.9 shoulder length 32.8
(lower wear) length 52.0
- 55
Baseball uniform of team Aoyama Suminomiya
one set
wool
(upper wear) length 61.4 shoulder length 34.5
(lower wear) length 68.8
- 56
Swimming caps
five pieces
cotton
width 16.0
- 57
Pochette
one piece
cotton
19.3 × 14.9
- 58
Culottes for horse riding
one piece
cotton
length 76.7

List of Exhibits

- 1
Newborn baby robe, *horai* (Mt. Penglai) crest on white plain silk
two sets
silk, *surihaku* (impressed foil designs)
74.0 × 76.0
- 2
Furisode (long sleeved kimono) and non-sleeved *haori* (coat), patterned white crepe
one set
silk, embroidery
(*furisode*) 64.0 × 64.0 (*haori*) length 52.9
- 3
Furisode and non-sleeved *haori*, patterned white crepe
one set
silk, embroidery
(*furisode*) 65.1 × 66.8 (*haori*) length 58.8
- 4
Furisode, designs of chrysanthemums and cherry branches, cloud *tatewaku* (pattern of vertical curvilinear lines) and bird roundels on patterned pink crepe
one set
silk, embroidery
67.5 × 67.0
- 5
Furisode, designs of pines, fringed pinks, and herons on whitish brown figured gauze crepe
one set
silk, embroidery
68.4 × 67.4
- 6
Furisode, fancy crests of *shikunshi* (four classic plants, namely the orchid, the chrysanthemum, the *ume* apricot, and the bamboo) on crepe dyed in red and white
one set
silk, dyeing and embroidery
68.4 × 67.4
- 7
Furisode, designs of bamboo, *ume* apricots, narcissuses, and snowflakes on purple patterned crepe
one set
silk, embroidery
67.0 × 67.6
- 8
Furisode, designs of autumn grasses and *fusenryo* roundels on light blue silk gauze
one set
silk, embroidery
68.4 × 67.8
- 9
Furisode, designs of cranes, broken hexagonal patterns and floral rhombuses, maple leaves, wisterias, and chrysanthemum branches on light green twill
one set
silk, embroidery
67.0 × 68.4
- 10
Cloak and hat for Japanese clothing, cream color
one set
silk, satin ground, embroidery
62.2 × 97.0
- 11
Cloak and hat for Japanese clothing, gray color
one set
silk, velvet, embroidery
68.6 × 98.0
- 12
Furisode and non-sleeved *haori*, design of clouds, cherry blossoms, pines, and maple leaves on light green patterned crepe
one piece
silk, dyeing and embroidery
(*furisode*) 66.8 × 68.4 (*haori*) 55.5 × 31.7
- 13
Furisode and non-sleeved *haori*, with fancy chrysanthemum crest on purple tie-dyed crepe
one set
silk, dyeing and embroidery
(*furisode*) 68.2 × 68.4 (*haori*) 57.5 × 33.2
- 14
Furisode and non-sleeved *haori*, purple irregularly dyed crepe
one set
silk, dyeing and embroidery
(*furisode*) 67.4 × 68.8 (*haori*) 56.7 × 64.0
- 15
Furisode and non-sleeved *haori*, designs of young pines and cranes on light yellow green patterned crepe
one set
silk, embroidery
(*furisode*) 70.0 × 69.0 (*haori*) 59.1 × 32.5
- 16
Furisode and overcoat, fancy crest of young pines and cranes on purple uniquely patterned crepe
two pieces
silk, embroidery
(*furisode*) 69.1 × 70.0 (overcoat) 59.4 × 70.6
- 17
Furisode, designs of swallows on white patterned crepe
one set
silk, embroidery
70.3 × 70.0
- 18
Furisode, chrysanthemum and codium *tatewaku* patterned purple crepe
one piece
silk, embroidery
70.1 × 70.0
- 19
Furisode, purple irregularly dyed crepe
one piece
silk, dyeing and embroidery
74.5 × 75.4
- 20
Furisode, designs of decayed wood, irises, maple leaves, and peony roundels on light yellow crepe
one set
silk, embroidery
76.0 × 76.2
- 21
Furisode and non-sleeved *haori*, purple fancy patterned crepe, designs of cherry blossoms on golden yellowish brown spotted crepe
one piece
silk, dyeing and embroidery
(*furisode*) 74.7 × 77.0 (*haori*) 57.2 × 31.5
- 22
Furisode, designs of spear *ume* on purple patterned crepe
one piece
silk, dyeing and embroidery
70.7 × 77.2
- 23
Furisode, designs of flower fans, butterflies and birds on purple and white stripe dyed crepe
one set
silk, dyeing and embroidery
77.0 × 77.6
- 24
Furisode, design of waterfall on black-red figured satin, white long *hakama* (skirt) and white *hakama*
one set
silk, embroidery
(*furisode*) 73.5 × 78.8 (long *hakama*) length 85.5 (short *hakama*) length 55.3
- 25
Furisode, designs of maple leaves, autumn grasses and quails on dark blue silk gauze crepe
one set
silk, embroidery
75.3 × 78.6
- 26
Furisode, designs of clouds and cranes on light blue vertical silk gauze
one piece
silk, dyeing and embroidery
73.7 × 79.0
- 27
Furisode, designs of willows, bellflowers, morning glories, and floral rhombuses on light blue crepe
one set
silk, embroidery
76.8 × 80.8

Foreword

His Imperial Highness Prince Takahito of Mikasa was born on December 2nd, 1915, as the fourth son of Emperor Taisho and Empress Teimei, and received the title Suminomiya. He established the Prince Mikasa family on the occasion of his coming-of-age ceremony.

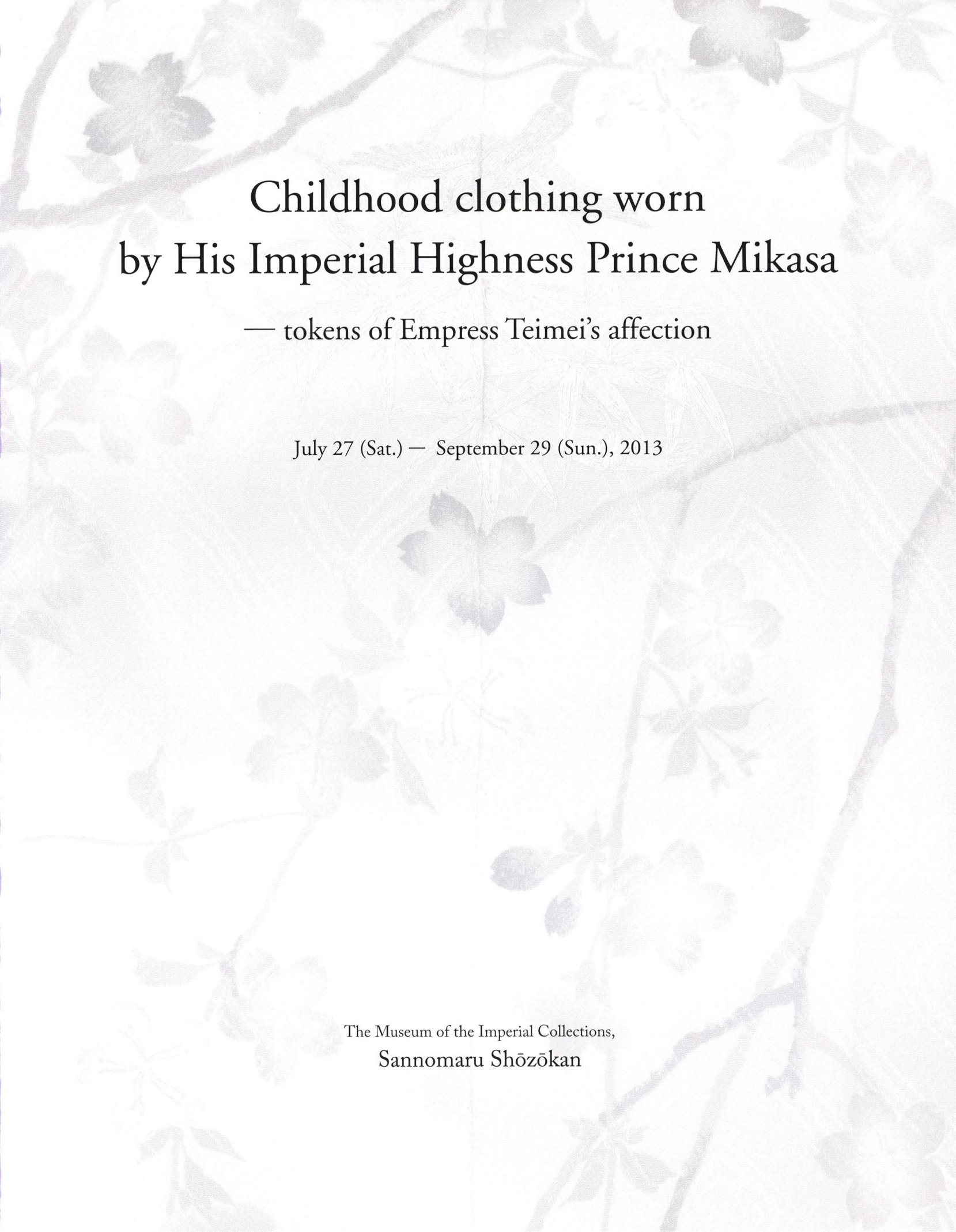
The various garments that HIH Prince Mikasa wore during his childhood have been cherished within the family, surviving the war. They include the robe that he wore on his first visit to worship the Imperial Palace Sanctuary, the dress-up clothes worn on his birthday, sailor suits, his school uniform when he entered Gakushuin Primary School in 1922, and his baseball uniform of the “AS” (Aoyama Suminomiya) team, showing how the Prince grew up actively.

Among these, the various dress-up clothes are *aya* twill or *chirimen* crepe cloth brightly dyed in red, pink, light green or light blue tailored in *furisode* form, with auspicious designs or designs of flowers on branches in embroidery. Traditional designs and techniques used since the Edo period are used, added with modern sense fit for the Taisho period, with contrivance in the decorative techniques. Since his birthday in 1919 when he first wore a *hakama* skirt, stylish designs can be seen on his black *haori* coats and *hakama* skirts that he wore occasionally. The lustrous velvet cloak with embroidered designs around the hem that he wore over his kimonos is also among them.

These charming and beautiful clothing of His Imperial Highness Prince Takahito of Mikasa that we are able to introduce on this occasion, show the motherly affection of Empress Teimei. We hope our visitors can appreciate the fashionable superior textile techniques and beautiful designs of the Taisho period through these items showing Empress Teimei’s heartfelt feelings, cherished by the Prince.

July, 2013

The Museum of the Imperial Collections,
Sannomaru Shōzōkan



Childhood clothing worn
by His Imperial Highness Prince Mikasa

— tokens of Empress Teimei's affection

July 27 (Sat.) — September 29 (Sun.), 2013

The Museum of the Imperial Collections,
Sannomaru Shōzōkan